

気候変動に適応した主要露地野菜の栽培体系確立

1 目的

近年の気候変動により従来の作期では、野菜の露地栽培が気候と合わなくなってきた。そこで、主要露地野菜品目について、現状の気候条件に適応する新しい作型、品種、栽培方法について検討する。

2 研究成果

■ 作期変動への適応策

・キャベツ、寒締めほうレンソウ、セリ等の品目について、近年の気候変動を踏まえた適品種、播種(定植)時期について明らかにした。

■ 生理的な障害への適応策

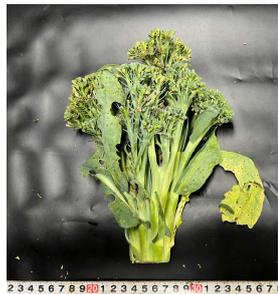
・ブロッコリーは高温期の栽培で異常花蕾が発生し、品質が低下する。「令麟」等、高温期の栽培でも異常花蕾発生が少ない品種を明らかにした。

○各品目における適品種、播種(定植)時期の検討



キャベツでは「初恋」、寒締めほうレンソウでは「寒味・極」等、近年の気候変動を踏まえた宮城県内における適品種や、その播種(定植)時期を明らかにした。

○ブロッコリーの異常花蕾発生要因と発生が少ない品種の探索



ブロッコリーの異常花蕾は花蕾形成後の高温遭遇により多発すること、「令麟」等の品種は異常花蕾発生が少ないことを明らかにした。

ブロッコリーの異常花蕾 高温による不整形花蕾(左)と正常な花蕾(右)

さらに詳しい内容は「普及に移す技術」

- ・ 第99号「キャベツ「初恋」の9月上旬定植秋冬どり栽培」
- ・ 第99号「ちぢみほうレンソウ栽培における播種適期の目安」
- ・ 第101号「12月出荷を目標としたセリ「Re14-4」の植付適期」
- ・ 第101号「夏播きブロッコリーにおける適品種と高温障害発生要因」をご覧ください。

https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/res_center/hukyuu-index.html

